

釀母菌のラクトフラヴィン量

笠原 道夫 蒲生 逸夫

(大阪帝國大學醫學部小兒科教室)

A. Guilliermond, M. Fontaine & A. Raffy¹⁾は, *Eremothecium Aschbyii* には比較的多量のラクトフラヴィンを含有し, 565-8560 γ % の價を検出してゐる. 當大學工學部高田博士も生物學的測定法により, この事實を確證されてゐる.

余等は下記釀母菌に就て, そのラクトフラヴィン量を測定した. 測定には政山・横山兩氏の Verzar-Huebner-Laszt 氏變法²⁾を用ゐた.

其成績を一括表示すれば次のやうである.

釀母菌のラクトフラヴィン量 (濕量)

種 類	1g中 γ
<i>Torula luteola</i> Saito	8.58
<i>Torula minuta</i> Saito	11.60
<i>Torula aurea</i> Saito	3.57
<i>Torula flava</i> Saito	15.49
<i>Verticillium glaucum</i> Bonord	4.70
<i>Monascus spec.</i> Kaoliang Moromi	2.60
<i>Torulopsis nadaensis</i>	15.00
<i>Eremothecium Aschbyii</i>	2640.00

即ち *Eremothecium Aschbyii* には著しく多量のラクトフラヴィンを含有してゐる. これを上記に比してその數値に差異のあることは, A. Guilliermond 及共同研究者は, その培養基にフラヴィンを含有しないものを用ゐてゐるに反し, 余等の培養基には多量のフラヴィンを含有してゐるためである.

(受附: 昭和16年11月20日)

1) A. Guilliermond, M. Fontaine et A. Raffy. : *Compt. rend. Acad. Sci.* 205, 1005, 1937.

2) Masayama und Yokoyama. : *Bioch. Z.*, 292, 151, 1937.